

有害プランクトン情報 (平成27年度 - No. 4)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトンの調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えることがありますので、毎月1回「有害プランクトン情報」を発行して出現状況をお知らせします。

【プランクトンの出現状況】

- 調査日 7月 第1回 : 内湾 (8地点) 7/6 内房 (7地点) 7/6
- 7月 第2回 : 内湾 (8地点) 7/21 内房 (7地点) 7/24
- シャットネラ属及びシュードシャットネラ属の有害プランクトンは、すべての調査点で確認されませんでした。
- ヘテロシグマ属の有害プランクトンは、すべての調査点で確認されませんでした。
- 赤潮は、7月21日にほぼ内湾全域で確認されました。優占種は渦鞭毛藻のプロロセントルムとケイ藻のスケレトネマでした。
- ※ シャットネラ属プランクトンは1細胞/1ml, ヘテロシグマ属プランクトンは1000細胞/1mlの密度を超えた場合に注意報を発行します。

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

7/6	内湾北西部	渦鞭毛藻	<i>Prorocentrum micans</i>	(図1)
			(プロロセントルム ミカンス 長さ:0.04~0.07mm)	
	内湾北東部~内房	ケイ藻	<i>Skeletonema sp.</i>	(図2)
			(スケレトネマの一種 直径:0.01mm)	
7/21,24	内湾北部	渦鞭毛藻	<i>Prorocentrum micans</i>	(図1)
			(プロロセントルム ミカンス 長さ:0.04~0.07mm)	
	内湾中央部~南部	ケイ藻	<i>Skeletonema sp.</i>	(図2)
			(スケレトネマの一種 直径:0.01mm)	
	内房	ケイ藻	<i>Pseudo-nitzschia sp.</i>	(図3)
			(シュードニツシアの一種 長さ:0.04~0.07mm)	



図 1

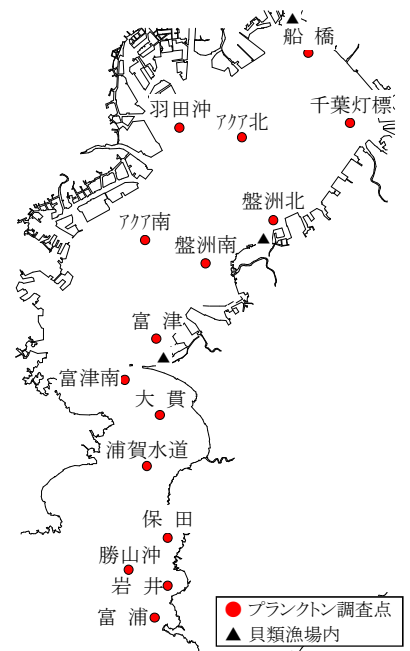


図 2



図 3

調査地点



【貝毒プランクトンの状況】

- 調査日 沖 合 : 内湾 (8地点) 7/6
- 貝類漁場内 : (九十九里海域:野栄 7/8)
- 麻痺性貝毒が発生する原因となるプランクトンは、すべての調査点で確認されませんでした。
- 下痢性貝毒が発生する原因となるプランクトンは、すべての調査点で確認されませんでした。